

金澤醫學會雜誌第四卷第三十號

明治二十五年五月十日發兌

論說及實驗

◎纖維性氣管支炎ノ一實驗

會員 松本善次郎

纖維性氣管支炎 Bronchitis fibrinosa ハ其原因ニ由リテ特發性ト續發性ヲ區別シ其經過ニ從ヒ急慢ノ二性ヲ區別ス、續發性ノ者ハ原病ノ多發スルニ由リ屢發スル者ナリト雖特發性症ニ至テハ甚々稀有ニシテ其實檢古來ヨリ未ダ百數ニ至ラスト云フ

纖維性氣管支炎ハ本邦ニ於テハ又之ヲ公ニセル者甚々稀ニシテ近時中外醫事新報中所載ノ症アリト雖彼ハ慢性ノ經過ヲ取レリ之ニ反シ余ハ自ラ急性特發性纖維性氣管支炎ニ罹レリ實ニ稀有ノ症ト云フヘシ又

其原因ニ就テハ注意ヲ要スヘキ點アリ故ニ今之ヲ公ニセントス然ルニ記事中故アツテ理學的診查等詳悉ナラス之レ余ノ大ニ遺憾トスル所ナリ然レモ之ヲ不問ニ付スルニ忍ヒス遂ニ記トナシ且ツ卑見ヲ加ヘ以テ會員諸君ノ高見ヲ叩カントス

患者、 醫松本善次郎齡廿二年六月石川縣金澤ニ生ル〔宗族歴〕祖父ハ平素強壯ナリシカ五十才ニシテ腦卒中ヲ以テ斃レ祖母ハ健存ス、父ハ幼時虛弱ナリシモ中年ヨリ健全ニシテ昨年一月ニ至リ腦溢血ニ罹リ今ハ右半身知覺違常ヲ殘スト雖尙生存ス母モ幼時虛弱ナリシカ今ハ健存ス一兄三弟共ニ流産シ唯一兄アリテ生存ス虛弱ニシテ胃加答兒ニ罹レリ當時胃擴張ヲ殘ス、外戚、祖父ハ七十年ニシテ心囊炎ニ罹リ同祖母ハ六十餘才肺結核ヲ以テ

(1)

(論說及實驗)

金澤醫學會雜誌

第四卷第三十號

(百九十七)

逝去ス其他叔父ノ一人ハ脚氣一人ハ腹膜炎ヲ以テ死セリ他ニ記スヘキ遺傳病等ナシ

〔嗜好〕 酒ハ之ヲ嗜マス煙草ハ十五才ヨリ始メ大量ヲ用ヒシカ十九年自ラ之ヲ禁セリ五六才ノ時壁土ヲ嗜シトアリト云フ

〔既往症〕 生來虛弱二年實布の里ニ罹リ九死ヲ免ル六年輕麻疹ヲ過ク次テ種痘善感ス十二年血常習トナリシカ醫治ニ由リ一二年ニ止ム十三年腸弟扶斯ニ罹リ五週ニシテ離孳ス貽后病ナシ十七年間歇熱ニ罹ル當時檢疫ニ從事シ癩病院ニアリ療養ノ暇ナク爲ニ再發四回ニ及ヒ貧血ヲ殘セリ十八年卒業試問ニ際シ徹夜スル一六ヶ月ニ及フ此際胸痛、咳嗽、咯痰(粘液膿痰)一回ノ血線ヲ混シタル咯痰ヲ見シトアリ然レ后害ナク治セリ此頃ヨリ人工蕁麻疹 Urticaria facticia ニ罹リ今尙治セス十九年東京ニ在テ脚氣ヲ初感ス乾性ニシテ知覺脫出全身

皮膚ニ蔓延シ心悸亢進、食欲欠損、聲音嘶啞、不眠アリ地ヲ房洲ニ轉シ居ル一ヶ月故アリテ歸京ス稍輕快スルヲ得タリ爾后每年春秋ノ季ニ際シ再感ス、廿四年一月寒胃ニ罹リ氣管支及胃ノ加答兒ヲ發ス二週ニシテ治ス二月ニ至リ脚氣再感シテ下肢ニ知覺違常アリ次テ知覺脫出ヲ發シ漸ク腹部ニ蔓延ス四月ニ至リ心悸亢進甚シク日ニ増進セリ職ヲ帶テ轉地ス輕快ヲ得タリ后屢寒胃ニ罹ルト雖多クハ鼻加答兒ニ過キス

〔本病來歴及經過〕 (明治廿四年五月五日)石川郡松任町ニ赴ク此日降雨風ヲ交ヘ車上寒氣ニ胃サル晩食ニ當リ嘔吐ヲ發ス時ニ口内蟹肉ヲ咀嚼セシカ嘔吐ニ前驅スル深吸氣ニ由リ其一片ヲ吸入セリ忽ニ劇甚ナル痙攣性咳嗽ヲ發シ左胸前腋下線部ニ於テ第四肋間部ニ劇シキ疼痛ヲ發シ呼吸ニ由テ殊ニ甚シク呼吸ノ際燥鳴ヲ發シ且ツ左胸内呼吸ヲ障害スル者アルヲ自覺ス聲咳ヲ試

ムルモ略出スルヲ能ハス徒ニ胸痛ヲ増スノミ臥褥ス諸症時ヲ經ルニ從テ輕快スルカ如ク睡ヲ得タリ

(同六日) 朝起他ニ違常ナシト雖左胸内壓重ノ感アリテ深呼吸ヲ營ムキハ燥鳴ヲ發シ且疼痛アリ咳嗽粘液痰ヲ略出シ倦怠ス

(同七日) 左胸痛痛アリ咳嗽ニ由テ増進ス咳嗽ハ時ニ發作性ニ來リ粘液膿痰ヲ出ス呼氣ニ臭氣アリ咯痰中帶黃白色ノ粟粒大乃至米粒大凝固物ヲ出ス柔軟ニノ脆ク指間ニ壓搾スレハ全ク糊狀トナリ腐敗息ヲ放ツ(蟹肉碎片ノ腐敗セシ者ナルヘシ)倦怠甚シキモ尙業務ヲ取ラサルヲ得ス故ニ歸宿スレハ直ニ臥褥ニ就ケリ

(同八日) 胸内壓重緊滿ノ感アリ吸氣ニ當リ左胸前記部ニ牽引性疼痛ヲ發シ呼吸ニ由リ顫動スル者アルヲ自覺シ手ニ震顫ヲ觸知ス左右胸内共ニ咳嗽ニ由テ疼痛ヲ發ス呼吸困難ヲ來シ一日數回發作狀ニ増進セリ呼吸ニ喘鳴及笛聲ヲ發シ傍人ノ訝ル所トナル聲音變弱無響トナリ顔面爪甲稍チアノ―ゼヲ呈ス食思不良、胃部膨滿

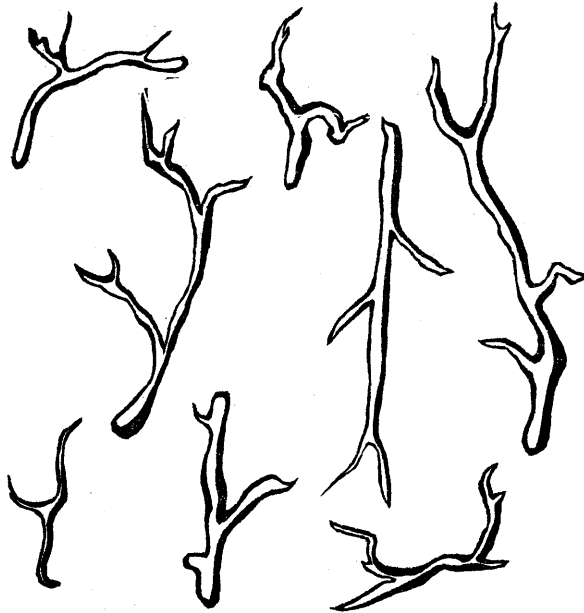
ノ感アリ夕ニ熱感アリ(檢温セス)夜間呼吸困難ノ爲ニ臥位ヲ取ルヲ能ハス爲ニ一睡ヲ得サリシ

此日知友ノ診査セル所ニ由リ左肺笛聲ヲ發シ全肺呼吸不定音アリト吐根浸沃剝合劑内服、硼酸水吸入ヲ行フ余ハ精神的外傷ヲ避ケン爲メ敢テ自体ノ診査ヲナサス始終他ニ放任セリ

(同九日) 朝來頭重倦怠アリ諸症増進シ呼吸淺表頻數ニシテ深キ吸氣及呼氣ヲ營ムヲ能ハス呼吸困難ハ初メハ吸氣ノミナリシモ漸ク呼氣又困難トナリ殊ニ運動、咳嗽、食后ニ甚シク又時ニ發作狀ニ増劇シ甚キニ至テハ窒息性苦悶ヲ發セリ此日咯痰中糸狀ノ者アリテ舌之ヲ觸知セリト雖敢テ意ニ介セス皆咯棄セリ夜ニ至リ呼吸困難甚シク脆坐呼吸ヲ發スルニ至ル前夜ノ如ク又一睡ヲ得ス前方ヲ内服吸入ス

(同十日) 今朝大ニ倦怠離褥ヲ得ス諸症益増進シ前八時檢温ス三十八攝度ナリ此日始テ痰壺中ニ咯痰ヲ取リ之ヲ檢ス實ニ咯痰ノ奇異ナルニ驚ケリ即擣指頭大乃至

小豆大ノ痰塊ニシテ白色線條ノ卷纏手毬狀ヲナスヲ見ル
 之ヲ水中ニ於テ攪拌スレハ分岐セル樹枝狀ヲナシ長徑
 大凡二一六cm 太サ〇・五—一mm ナリ此日如斯痰塊ヲ
 出スヲ四五個ニ至ル其狀圖ニ示スカ如クナリシ



咯痰内凝物自然大

此日乗車歸省ス知友來診ス左胸側面前下部ニ於テ一部
 打診音低調ニシテ氣胞呼吸音幽微ナル部アリ又同側ニ於
 テ呼吸ニ著キ笛聲ヲ發ス后五時三十八、七攝度ナリ祛
 痰劑下熱劑ヲ服シ左胸氷罨法ヲ行フ

(同十一日) 咳嗽胸痛大ニ輕快スト雖呼吸困難等尙前
 日ノ如ク一日數回窒息性苦悶ヲ發ス夕熱三八、〇攝度
 ナリ

(同十二日) 諸症稍輕快ス會員故横山氏診セラハ左右
 肺下界著ク下リ全肺氣胞音甚タ幽微殆ト聞クヘカラス
 左胸側面前下部ニ於テ笛聲アリ又々大小水泡囉聲兩肺
 ニ存スト夕熱三七、七攝度咯痰ハ粘液膿樣ニシテ中ニ氣
 管支凝固物ノ小片ヲ含ム

(同十三日) 諸症大ニ輕快セリト雖知友ノ勸告ニ依リ
 金澤病院ニ投ス咳嗽漸ク減シ咯痰中氣管支凝固物ヲ交
 ユル亦逐日減少シ二三日ノ后ハ其痕跡ヲ見サルニ至タ

呼吸困難ハ一日數回發作性ニ來ルノ外平時ト異ナル
 一ナシ左胸只笛聲ヲ見ルノ外著シキ症候ナシ入院中体
 温ハ三七、〇攝度内外ナリ吐根浸沃剝劑、機那煎赤酒ノ
 内服石灰水ヲ吸入ス

(同廿二日) 諸症去リ只疲勞アリ依テ退院ス退院后二
 三回呼吸困難起リシコアレハ前水劑ヲ持長シ滋養強壯
 ナ旨トス

爾后發作ナシ只寒胃ニ罹レハ左胸疼痛シ呼吸不利ヲ覺
 エシコアルノミ以上記載セル所ノ症候ヲ再ヒ區別シテ
 記載スルハ診斷上有要ナルヲ信ス故ニ次ニ之ヲ掲ント
 ス

(胸痛) ハ始メ異物吸入ノ時ヨリ左胸ニ始リ深呼吸ニ
 由テ牽引性疼痛ヲ發シ咳嗽壓迫ニ由テ増進シ次テ兩胸
 壓重緊滿ノ感アリ

(咳嗽) ハ異物吸入ノ際痙攣性咳嗽ヲ以テ初リ乾咳ナ

ルアリ咯痰ヲ伴フアリ

(咯痰) ハ始メ粘液様ニシテ次テ氣管支凝固物殆ト全
 部ヲ占メ其間僅ニ粘液ヲ以テ充スカ如ク次テ粘液膿痰
 中氣管支凝固物ノ小片ヲ見后全ク純粹ナル粘液膿様ニ
 變シ遂ニ去レリ咯痰中凝固物ヲ見シハ僅ニ六七日間ナ
 リ

(呼吸狀態) 初メ異物ヲ吸入スルノ際ハ僅ニ呼吸ヲ障
 害スル者アリテ左胸内ニ存スルヲ覺エシカ后吸氣困難
 トナリ次テ呼氣モ又困難トナリ時々呼吸困難ノ發作ヲ
 來シ甚キニ至リテハ窒息性苦悶ヲ發セリ又呼吸淺表頻
 數ニノ潔呼吸ヲ營ムコト能ハス呼吸ニ喘鳴笛聲ヲ發シタ
 ルコアリ又タ初期呼氣ニ腐敗臭ヲ發シタルコアリシ
 (胸部理學的變常) 視診上后ニ胸廓運動幽微ニノ擴張
 セリ、觸診上左胸ニ震顫アリ、打診上初メハ著キ變化ナ
 キモ中頃ニ於テ打診音低調(左胸側面前下部)トナリ數

日ニノ去ル又肺ハ左右兩下界共ニ常位ヲ下リシ(數日

間)蓋シ病症ノ極期ニ於テセリ、聽診上始メハ全肺呼氣

音ヲ發シ次テ氣胞呼吸音甚々幽微トナリ殆ト聞クヘカ

ラサルニ至リ大小水泡音ヲ諸部ニ聽取セリ獨リ最モ病

初ニ現レ最モ永ク持續セル者ハ左肺笛聲ナリトス(然

レモ有響水泡音ノ如キハ經過中全ク欠如セリ)

(熱) 病初ハ稍倦怠アリシモ檢温セス熱ハ朝夕ノ差ハ

一度内外ニシテ定型ナク最高夕熱ハ三八、七攝度最高

朝熱ハ三八、〇攝度ナリ夕熱ノ三十八度ヲ越ヘシハ經

過中僅ニ一二日ノミナリ

(消化機能候) 食慾ノ病中欠損ヲ見シハ二三日ナリ

(神經系症候) 只僅ニ頭重アルノミ(窒息性苦悶ヲ起

シ不眠トナルニ至テ初テ現ハル)

(血行系症候) 脈ハ呼吸困難ト共ニ頻數トナリシノミ

呼吸困難ヲ發スルニ至リテチアノーゼヲ呈セリ(顔面

爪甲)

(榮養) 障害セラレシカ病后快復速ナリシ

(貽後病) ナシ只寒胃ニ由リ左胸疼痛起ルヲアルノミ

(診斷) 本病ノ纖維性氣管支炎ナルコトハ咯痰ヲ見ルニ

至テ實ニ明了ナリト云フヘシ故ニ他ノ病類ト混合スル

コトナシ又其經過ニ由リ特異咯痰ヲ出セシノ時日ニ由リ

急性ナルコト又知ルヘキナリ故ニ其特發性ナルカ將續發

性ナルヤニ就テ論述セントス

特發性ノ者ハ甚々稀有ナリト雖之ニ反シ續發性ノ者ハ

屢見ル者ナリ實布の里、纖維性肺炎、肺結核皆本病ヲ續

發ス余カ場合ニ於テハ實布の里、肺結核共ニ之ヲ徵知

セス病初喉頭及咽頭内疼痛ヲ發セシコトアリシモ咳嗽頻

發ノ當時ナリシヲ以テ其刺戟ニ由リテ起リシナルヤ知

ルヘカラス固ヨリ咽頭内義膜等ヲ發見セス、又已往症

中述フルカ如ク一回咯痰中血線ヲ見シコトアレモ爾后肺

結核ヲ徴セス獨リ疑ハシキハ纖維性肺炎ノ有無之レナ

リ次ニ之ヲ述ントス

(纖維性肺炎アリト見做スヘキ點) ハ左ノ諸症候ナリ

(一) 胸痛

(二) 左肺一部打診音低調及ヒ氣胞呼吸音微弱

(三) 咳嗽

(四) 小氣管支凝固物ノ咯出ナリ

(纖維性肺炎アリト見做スヘカラサル點) アリ

(一) 發病ノ狀態ハ肺炎ト異ナリ

(二) 熱ノ高度ハ三十八、七攝度ヲ最高トス又熱ニ

定型ナシ

(三) 特異ノ鉄錆色痰ナキノミナラス血線ヲ混スル

痰モ亦發見セス

(四) 肺ノ何レノ部ニモ有響水泡音ナシ

(五) 咯痰ヲ鏡檢スルニ Frankel'sche pneumonienkap-

elkokkenヲ發見セス

反テ一種ノ黴菌ヲ發ス

以上諸點ニ就テ其診斷的價値ヲ對比スルキハ肺炎ノ有無ヲ知ルヲ得ヘシ次ニ之ヲ比較ノ論セントス

(纖維性肺炎アリト見做スヘカラサル點) 中所載ハ皆

充分ノ價値アリ殊ニ咯痰ノ特異ナルヲ欠キ中ニ Pneumonienkokkenヲ見サル聽診上有響水泡音ヲ欠クニ至テハ

纖維性肺炎アラスト信スルヲ得ヘシ

(纖維性肺炎アリト見做スヘキ點) トシテ記載セル諸

徵候ハ皆肺炎ニアラサルモ他ノ疾病ニ發スルヲ得ルカ

故ニ診斷上價値ナシ今之ヲ論述スヘシ

(胸痛) ハ其性始メ牽引性ニシテ呼吸咳嗽ニ由テ甚シク

壓重緊滿ノ感トナレリ其牽引性疼痛ハ氣管支内異物氣

管支ノ纖維性炎等ニ於テモ發スルヲ得壓重緊滿ノ感ハ

續發セル肺急性膨脹ニ由テ發スルヲ得ヘシ故ニ此症候

(7)

(論說及實驗)

金澤醫學會雜誌

第四卷第三十號

(二百三)

ノミチ以テ肺炎トスヘカラス

(咳嗽) ハ凡テ三又神經、迷走神經ノ刺激ヨリ來ルカ故ニ固ヨリ此症候ノミチ以テハ肺炎トナス能ハス

(左肺下部ニ一部打診音低調) ナル所アリ之レモ肺炎

ノミナラス氣管支閉塞(纖維性凝固物ヲ以テ)セラレ、
 其ハ其未梢タル肺胞内ノ空氣ハ血管内ニ吸收シ去ラレ
 以テ局部肺組織ニ弛緩ヲ來シ低調ノ音ヲ發スヘシ

(呼吸音一部ニ於テ微弱) ナリシハ又同上ノ關係ニ由

ルヘシ然レハ兩肺呼吸音微弱トナリシハ肺急性膨脹ヲ
 續發シテ肺ノ收縮擴張ヲ障害スルニ由ル故ニ肺炎ノ特
 徴トナスヘカラス

(左肺下部) ニ笛聲アリシハ纖維性凝固物細氣管枝内
 ニ充填シテ然ルナルヘシ又肺炎徴候ト云フヲ得ス

(兩肺全部ニ大小水泡囉聲) ヲ發セシハ單純氣管支炎
 ノ蔓延ニ由ルヘシ之レ等ハ又肺炎ヲ徵スル者ニアラス

(小氣管支ニ準スル纖維性凝固物ノ咯出) ノ肺炎ニ於

テ多發スル者ナリ故ニ此症候ノミニ固扼セハ肺炎ナリ
 ト云ハサルヲ得ス然レハ今一步ヲ退キ纖維性滲出物ノ

形成ハ諸種ノ黴菌ニ由テ喚起セラレ、ヲ得ル者ナルヲ

知ルキハ余カ場合モ亦此種ノ原因ニ由テ來リシヲ察知
 スルニ足ル即チ纖維性炎ハ纖維性肺炎實布的里、肺結
 核、腸第扶斯、痘瘡、猩紅熱、麻疹、麻刺利亞等諸種ノ黴

菌ニ由リテ起ル者ニノ余ノ場合ニ於テハ阻碎セル蟹肉

小片ハ小氣管支内ニ直接ニ吸入セラレ肉中ニ混在セル
 黴菌ハ恰モ他ノ傳染病黴菌ノ如ク直チニ此部ニ附着シ
 テ以テ特養性纖維性小氣管支炎ヲ起シ之レニ由リテ小

氣管支模型ニ準スル義膜ヲ吸出セル者ト稱スルモ敢テ
 過當ニアラサルヘシト信ス

會員飯森益太郎氏ハ余ノ咯痰中他ノ桿菌ヨリ著シク
 大ナル一種不明ノ黴菌カ散在(多量ナラス)スルヲ發

見セリト之レ恐クハ蟹肉ト共ニ吸入シタル黴菌ニ
蓋シ病原ナルヘシ

上記ノ黴菌ハ果ノ余カ起因ナリシヤ否ハ精密ナル動
動試験等ニ依ラサレハ知ルコト難シ(他日此目的ヲ達
スルヲ得ハ又報道スヘシ)先輩中氣管支内異物ヨリ
纖維性肺炎ヲ喚起セシメント欲シ蠟ヲ兎ニ試ミ又藥
液ヲ注入シテ試験セシモ良蹟ヲ得サリシト云フ

然レモ上記ノ試験ハ異物ノ腐敗スヘキカ否又黴菌ノ
種類其有無ニ至テハ余ノ場合ト同様ナル者ニアラス
故ニ上記ノ試験ヲ以テ直チニ余ノ説ヲ排付スルニ足
ラサルヘシ

以上論述シ來ル時ハ肺炎ヲ徵知スルコト能ハス又余ノ考
按テ以テ特發性炎發生ノ理ヲ推スルヲ得ヘク加之他ニ
本病ヲ特發スヘキ原因的關係アリテ存ス(次ニ記載ス)
故ニ余ハ之ヲ特發性纖維性氣管支炎ナリト云ハントス

(論說及實驗)

金澤醫學會雜誌

古來ノ統計ニ由レハ特發性氣管支炎ハ虛弱ノ男子ニ
多クシテ三四月頃ニ多發シ(余ハ五月ナリ)寒胃誘因
トナリ初メ單純氣管支炎ヲ發シ次テ本病ニ轉スルコ
多ク又タ皮膚病ニ關係アリト(余ハ人工蕁麻疹ヲ患
フ)之レ皆余カ場合ニ現ル所ナリトス
以上論述シタル所ニ由リ余ノ實驗ハ左ノ括言ヲナスコ
ト得ヘキカ如シ

(一) 人工蕁麻疹ヲ患フル虛弱家ニ於テ黴菌ヲ混在
シ且腐敗シ得ヘキ細小異物ノ吸入ニ由リ特發性急
性纖維性小氣管支炎ヲ發スルヲ得ヘシ

(二) 黴菌含有ノ小異物吸入ニ由リ小氣管支内ニ特
發性纖維性炎ヲ發スル時ハ恰モ續發性炎(肺炎ニ
續發セル小氣管支纖維性炎)ニ於ケルカ如キ小氣
管支摸型ノ義膜ヲ陪出スルコトアリ故ニ余ノ場合ニ
H. Eichhorst氏ノ所說(特發性炎ハ大氣管支ヲ侵

第四卷第三十號

(二百五)

シ、續發性ノ者ハ小氣管支ヲ侵ス者ナリ)ハ符合セ
サル者ト云フヲ得ヘシ

(三) 如斯症ハ后害ナク全治スルコアリ